

2024 静岡県ソーシャルワーカーデーフェス開催 ～みしま未来研究所にて～

○三島共立病院・小椋真紀子 見晴学園・高井昌弘
白扇閣・矢澤 優 沼津のぞみの里・遠藤史織

要旨

今年度、初めての試みとして、精神保健福祉士協会、医療ソーシャルワーカー協会、社会福祉士会の3団体で試行錯誤しソーシャルワーカーデーフェスを開催し、多くの方にご参加いただけた。静岡県東部開催となつたため参加できなかつた方々も多く、ここに発表する。

1 目的

3団体の若年層の会員の減少、職場での後継者不足の問題の観点から、学生や地域の方々向けにフェスを開催し、ソーシャルワーカーに直接出会い、様々な場面で活躍していることを知つてもらうという啓発に重点をおき、フェスを開催した。学生をターゲットとするため、各団体の若手に参加してもらうことで親しみやすくし、また、フェスに参加した若手が各団体の活動を支えていく存在になって欲しいという願いもありフェスの運営スタッフを募った。

2 方法

三島市にある「みしま未来研究所」にて、2024年7月15日10時～16時、「ソーシャルワーカーデーフェス」と題して、以下の内容を実施。ワークショップ（蛍石・絵画制作）、ワーカーズカフェ（LINK若手社会福祉士と大学生・高校生の座談会）、もしばな（MSW協会担当）、メンタルヘルスラボ（精神保健福祉士協会担当）、まちがえてもいい音楽団の演奏（ケアマネや認知症の方との演奏会）、静岡福祉大学檜木ゼミ報告、田方農業高校認知症マフ展示、福祉人材センターブース設置、キッチンカー配置。本発表は、静岡県社会福祉士会理事会の承認を得ている。

3 結果

来場者178人、スタッフ30人参加。LINKメンバーを中心に作成したマスコット「りんくまちやん」のステッカー100枚、スタンプラリー100枚配布。三島近隣の高校から学生が20人程度参加し「将来の夢がより明確になった」「様々な職種があることがわかった」「ソーシャルワーカーと直接話すことで、大変なことだけでなく楽しいこともあるとわかった」など嬉しい言葉を聞くことができた。また、親子（高校生）で参加し、ソーシャルワーカーについて理解を深めて進路の参考にして下さった方もいた。大学生は

7人参加し、高校生とソーシャルワーカーの間を繋ぐ役割となった。地域の方でソーシャルワーカーに興味を持ってくださった方もおり、様々な方にソーシャルワーカーの啓発ができた。企画・運営にあたるスタッフも、楽しみながらソーシャルワーカーの魅力発信を進められたことや、3団体の交流も良い刺激として加わり、有意義な一日となった。

4 考察

アンケート結果より、来場者は10代19%、30代23.8%、40代19%で、10代30代合わせて42.8%と半数弱を占め、若い世代に参加してもらえた。来場者の所属は、福祉関係者が42%と多く、今回のフェスに対して興味を持っていることがわかった。福祉関係でない高校生が19%参加し興味を持っていただけたが、福祉関係の高校生の来場がなく課題となつた。福祉大学生は14%で、静岡福祉大学のゼミ生の参加があり他の大学をどう巻き込むかも課題である。フェスを知った理由は、学校の先生からの紹介が多く学校の先生との連携が重要と考える。チラシ・ポスターを見て来場が9.5%あり、チラシ作成も効果的であった。SNSを見てという方がいなかつたので課題とした。42%の参加者がソーシャルワーカーを知らない、或いは聞いたことのある方で、ソーシャルワーカーの印象が変わったと答えた方が殆どであり、スタッフの楽しく前向きな雰囲気が伝わったと考える。

5 まとめ

学生も活動の発表の場を求めていること、交流を図りたいと考えていることがわかり、運営開始当初から学生を巻き込むことで、更にソーシャルワーカーの仕事や人となりを理解し興味を持ってもらえると考える。また、地域の企業や行政がフェスの宣伝に協力してくれソーシャルワーカーへの関心を深めることができた。